

いつも何度でも

「千と千尋の神隠し」のED

よ 呼んでいる 胸^{むね}のどこか奥^{おく}で
いつも心^{こころ}踊^{おど}る 夢^{ゆめ}を見^みたい

かなしみは 数^{かず}えきれないけれど
その向^むこうできっと あなた^あに会^あえる

く 繰^{かえ}り返^{かえ}すあやま^あちの そのたび ひとは
ただ青^{あお}い空^{そら}の 青^{あお}さを知^しる
は 果^はてしなく 道^{みち}は続^{つづ}いて見^みえるけれど
この両^{りょうて}手^ては 光^{ひかり}を抱^だける

さよならのときの 静^{しず}かな胸^{むね}
ゼロになるからだ^{みみ}が 耳^{みみ}をすませる

い 生^いきている不^ふ思^し議^ぎ 死^しんでいく不^ふ思^し議^ぎ
花^{はな}も風^{かぜ}も街^{まち}も みんなおなじ

よ 呼んでいる 胸^{むね}のどこか奥^{おく}で
いつも何^{なん}度^どでも 夢^{ゆめ}を描^{えが}こう

かなしみの数^{かず}を 言^いい尽^つくすより
同^{おな}じくちび^{うた}るで そと歌^{うた}おう

と 閉^とじていく思^{おも}い出^での そのなかにいつも
わす 忘^{わす}れたくない ささやき^きを聞^きく
こなごなに砕^{くだ}かれた 鏡^{かがみ}の上^{うえ}にも
あたら 新^{あたら}しい景^{けしき}色^{うつつ}が 映^{うつ}される

はじまりの朝^{あさ}の 静^{しず}かな窓^{まど}
ゼロになるからだ^み 充^みたされてゆけ

うみ 海^{うみ}の彼^{かなた}方^はには もう探^{さが}さない

かがや
輝くものはいつもここに
わたしのなかに^み見つけられたから